

第2回POPコンテスト



中根館長（前列左）、サンライズ産業(株)工藤代表取締役（前列右）、尾崎参与（後列右）と受賞者

弘前大学附属図書館では、昨年度に続き、図書館の利用促進や読書推進を目的とした第2回POPコンテストを開催いたしました。今年度は、当館にご寄附をいただいておりますサンライズ産業株式会社様からのご支援により、サンライズ産業(株)賞を新設するとともに、副賞の金額を増額しました。

5月23日（月）～7月29日（金）の応募期間に24点のPOP応募があり、作品は全て該当図書と共に館内特設ブースに展示されました。そして、一般利用者を含む図書館利用者からの投票、および学内利用者による専用投票Webページからの投票によって、全6作品の入賞が決定しました。

表彰式は11月11日（金）に附属図書館本館にて行われ、それぞれの受賞者に中根館長から表彰状が手渡されました。大賞は個性的なデザインで『スティーブ・ジョブズ 驚異のプレゼン』（カーマイン・ガロ著）の魅力を伝えた人文社会科学部1年・佐々木伊吹さん、優秀賞は目を引く配色のPOPで『嫌われる勇気』（岸見一郎、古賀史健著）を紹介した人文学部3年・澤田悠祐さんが受賞しました。その他3名の方が、それぞれ工夫をこらしたPOPで佳作を受賞しました。

サンライズ産業(株)賞は、津軽地方と猫の魅力を伝えた『ふるさとのねこ』（岩合光昭著）のPOPを作成した教育学部3年・奥寺桜子さんが受賞し、サンライズ産業(株)・工藤代表取締役から表彰状が手渡されました。

受賞者からは、「この本はプレゼンの技術が書いてあるだけでなく、人に自分の話を上手く伝える方法が書いてあり、とても良い本。この本の魅力をどうすれば伝えられるか考えながら、POPをつくった」（佐々木伊吹さん）、「四季のはっきりしている津軽地方の魅力を、猫の姿を通して伝えてくれる本なので、猫と青森県がじゃれあっているPOPにした」（奥寺桜子さん）などのコメントをいただきました。

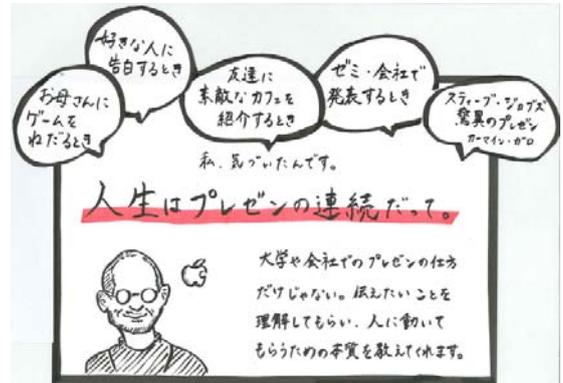
大賞

人文社会科学部 1年 佐々木 伊吹さん
『スティーブ・ジョブズ 驚異のプレゼン』

まず始めに、大賞をいただけてとても嬉しいです。アドバイスをくださった方、投票してくださった方々、主催の附属図書館関係者の方々、協賛企業の方々、本当にありがとうございました。

突然ですが、POP コンテストに応募したきっかけは、ポスターをみてこんな機会なかなかない！チャレンジせねば！と思ったことです（賞品がきっかけの一つであったことは秘密にしておきます）。私はPOPをつくるのは初めてで、たくさん悩みました。どうしたらこの本の魅力が最大限に引き出されるだろう、どうすれば私の伝えたいことが伝わるだろう、絵を描くのは苦手だなあ、目を引くには何をしたらよいだろうか、とにかく色々なことを考えました。『スティーブ・ジョブズ 驚異のプレゼン』という本ですが、（もちろん）プレゼンのテクニックが書かれていて、厚みがあって、いかにもHow to本って感じがして、手に取りにくいと感じる人もいると思います。だからこそ、日常でも使えることがたくさん書いてあるよアピールをした吹き出しをつけ、筆ペンによって堅くない感じを出し、POPだけにポップなデザインに仕上げました。

今回、POP コンテストに参加したことでたくさんのことを学ぶことができました。重ねてお礼申し上げます。



優秀賞

人文学部 3年 澤田 悠祐さん
『嫌われる勇気』

岸見 一郎著『嫌われる勇気——自己啓発の源流「アドラー」の教え』が私の考えの根底を揺さぶり、今の価値観を形成する土台となった本でした。その本を読んで受けた衝撃を他の人にも共有したいという気持ちが、私がPOP コンテストに応募しようと思った動機となります。

この本の見どころは、トラウマなんか存在しないと言い切って、対人関係の悩みから解放するものの考え方で、私は今まで本を人並みに読んできましたが、読んでいて頭がビリビリするような感覚は初めてでした。

実際にPOPを描くときには、インターネットで調べてキラキラしていたり、ポップな感じのものを沢山参考にしていましたが、この本から受けた私の衝撃はそのようなキュートなものではなかったので、あえてペンやイラストを使わずにパソコンのPowerPointでPOPを作成したのです。頭をガンッと殴られてビリビリするような感覚を本で味わった、そのような感覚を赤の混じった黒を使うなど、色合いで表現しました。このように、読んだときのインパクトを重視して描いたPOPですが、弘前大学の学生にはぜひ読んで、自身の考え方と比較してほしいと思っています。



サンライズ
産業(株)賞

教育学部3年 奥寺 桜子さん
『ふるさとのねこ』

昨年開催された第一回目の POP コンテストに参加した際に、本の魅力を形にする楽しさが、自己の中にあつたため、今回も応募しようと思いました。

『ふるさとのねこ』はねこの写真集となっています。「ふるさと」の舞台は、弘前を含む青森県の津軽地方です。津軽地方の自然や人々と、そこに暮らすねこ達との関わり合いを写真家・岩合さんが撮影したことで、津軽とねこの魅力がどちらも引き出されています。

そのため、POP には青森県をかたどった画用紙を用い、その背景には、私が弘前に住み、身近に感じている自然の1つである「桜」や「リンゴ」の絵を描きました。そこに、ふるさととねことの関わりを表現すべく、津軽地方にねこが抱きついている絵をプラスしました。作成過程の際には、写真集ならば見ていただくのが一番だと思っていたので、魅力を文字や絵で表現することが難しく感じました。その結果、あまり多くを語らず「ふるさと」と「ねこ」を全面的に押し出しました。

以前の、本を読んで、また、POP を作って楽しいという気持ちだけでなく、本の魅力の表現・伝え方など、受け手のことを考えることができるようになり、自身にとってプラスの経験となりました。私のPOP を見てくださった方々、企画運営に携わられた図書館の方々、サンライズ産業(株)の方々に感謝します。是非、第三回目も開催していただきたいです。



佳 作

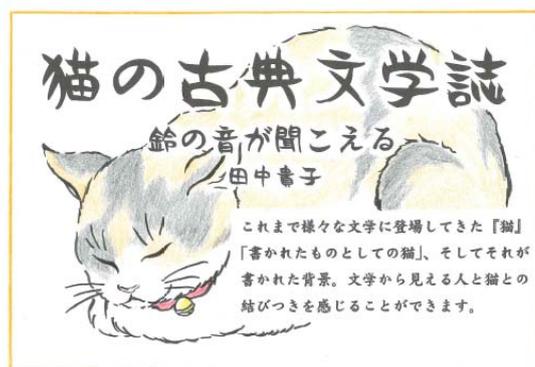
教育学部3年 菅澤 なつきさん
『猫の古典文学誌 鈴の音が聞こえる』

この度は、『猫の古典文学誌 鈴の音が聞こえる』で佳作賞をいただけたこと、とても嬉しく思います。投票して下さった方々、ありがとうございました。

猫が登場する物語や文学は多く存在しますが、それらをまとめ、紹介する本に出会ったことがありませんでした。この本を見つけた時、すぐ手に取りました。これまで猫が登場した文学から見えてくる人と猫との結びつきについて、筆者である田中貴子さんは丁寧に、そしておもしろく紹介してくれています。読めば読むほど、可愛い猫が頭の中に現れてきます。

POP に描いた猫は、気持ちよさそうにまったりした様子にしました。また、招き猫のモデルとしてよく使用される三毛猫にし、和の雰囲気のを漂わせました。タイトルにはきっちりとした堅い書式ではなく、猫らしく無駄な力が入っていないような書式にし、三毛猫の絵と合わせました。通りすぎる人の目にも留まるPOP にしたいと考え、全体をシンプルにし、三毛猫を大きく描きました。

人に見てもらおうことを意識して作成し、自分の納得のいく POP を完成させることができました。私のPOP が佳作賞という形で評価していただけたことが本当に嬉しく、応募をしてよかったと感じました。



佳作

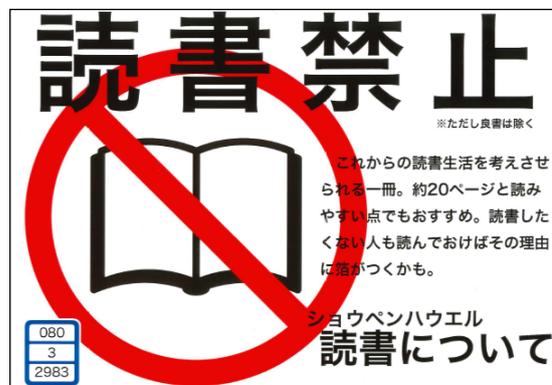
理工学部3年 山本 健太郎さん
『読書について』

昨年に引き続き、佳作を受賞することができて嬉しく思う。図書館に『読書禁止』という札が掲げてあったら面白いかなと思いきョウペンハウエルの『読書について』を選びこのようなPOPにしたわけであるが、好評のようで何よりである。

さて、本を読むなど本に書いてあるならば、それは矛盾していないだろうか。そもそも物書きが本を読むなんて言うのはおかしいのではないだろうか。もちろん単純に本を読むなど書いてあるわけではない。『読むべき本』はどんどん読むべきだ。面白さを優先に恣意的に『読書禁止』と取り上げただけである。ありがたいことにこのPOPを見てこの本を読んでもくれた後に私の読解力を批判されても困るのでここに弁明しておく。

結局のところ、なぜ読書をするのだろうか。暇つぶしなら暇つぶしでも構わないしそれは自由だ。しかしながら大学生が行うべき読書は知識を得、自ら新たな理論を構築するために行うものであろう。この本はそれに気づかせてくれる『読むべき本』である。

最後に、私のPOPを見てくださった方々、おすすめの本を紹介してくださったPOPコンテストの参加者の方々、企画運営に携わられた図書館の方々、協賛のサンライズ産業株式会社様に深く感謝する。



佳作

教育学部2年 小野 真由さん
『印象派はこうして世界を征服した』

この本は、印象派とそれを売買する富裕層や競売人との結びつきや、印象派誕生時は人々から非難を受けていたのにも関わらず、どうやって現在の地位を手に入れることができたのかなど、美術作品の競売人である筆者が美術史の舞台裏とともに解き明かしていくというものです。

私は元々印象派が好きということもあって、今まで印象派関連の本は読んできましたが、POPコンテストが開催されることを知り、この機会に図書館にある印象派の本も読んでみようと思い応募に至りました。

『印象派はこうして世界を征服した』という、意味ありげでインパクトのあるタイトルを生かし、行く人の目を引きつけるようなデザインになるよう意識して制作しました。今回他の応募作品から学ぶことも多々あり、もっとデザインや印象派について、技術と知識を身につけていきたいと感じました。

このPOPを見て、「美術」と聞くだけで少し後ずさりしてしまう方にも読んで頂ければ幸いです。印象派好きやそうでない方、経済や世界史に興味がある方も楽しめる1冊だと思います。是非読んでみてください。

最後に、佳作を受賞できたこととても嬉しく思います。主催してくださった図書館の方々、POPを見て興味を持ってくれた方、投票してくれた方、ありがとうございました。

